

鳥工PTAだより

93

鳥取工業高等学校PTA

つながり

副会長 植垣 緑

PTA評議員のアンケートで、「どちらでもよい」「中学校で役員をしたことがある」と答えたのが、PTA役員の始まりでした。

長男のクラス評議員決めの時、ちょうど三人、その三人がクラス評議員となりました。そして次男の時は立候補しました。

長男・次男、そして母までが鳥工にお世話になることになりました。

小・中学校と違い、高校では親が関わることもほとんどなくなってしまうと思っていました。そして、子どもも離れていってしまうのだろうか、

そんな疎遠感を抱く中「つながり」が欲しくて、又、親として学び、視野を広げていきたいという思いからPTA役員を引き受けることにしました。

さて、鳥工PTAには、人権教育部、生活指導部、環境厚生部、教育教養部の四つの専門部があります。それぞれ、先生、保護者、地域の方々との連携を深める活動を行っており、その様子を広報誌などでお伝えしています。

特色のある活動として、『津ノ井地区懇談会』『花木の剪定と除草作業及び「桜ヶ丘グリーンゾーン」活動への参加」(TEAS活動の一環)『鳥工祭展示作品作り(陶芸教室)』『人権教育(現地研修)』などがあります。また、今年度新しい取り組みとして、生活指導部

主催の「食育講演会」が行われました。講演会「高校生に必要な栄養について」、調理実習「バランスのとれた簡単朝食はん作り」などという内容になっています。今回は試験的なもので、PTA評議員のみを対象としましたが、来年度は保護者全員の方に声かけをしようと考えています。

研修活動では、科別PTA、学年別懇談会の開催、各種研修会への参加、役員研修会への参加などを行っています。いくつかの研修会に参加し、たくさん

の有意義なことを学びました。学校、保護者、地域の方々との「つながり」を大切にし、暖かく子ども達を見守っていく取り組みがなされていることを知りました。また、高校生の活動の発表の場では、活き活きと輝いている姿に感動し、高校生の素晴らしさを見せてもらいました。

鳥工祭、体育祭など保護者に開放されている学校行事もたくさんあります。鳥工らしさを生かし、参加しやすい工夫を学校の方でも考えてくださっています。

鳥工で学べることや素晴らしさをもっともつと伝えていただけたらと思います。

いよいよ卒業の時を迎えました。子ども達のPTA活動からも卒業です。

親身になり導いてくださった先生方、学校関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

鳥工マスコットキャラクター



ばむせぶくん (PMSEB)

梨の園

三年主任 玉木 茂

年明けの寒さと雪で、庭の梅の木が身をすくめているように見えます。「風雪に耐え、梅花麗し」と言われることから、この寒さの後は、きっと美しい花を咲かせてくれることでしょう。

さていよいよ三年生は卒業の日を迎えます。特にこの一年、三年生は、大きな足跡を残しました。鳥工祭では、最上級生として全体をリードし、部活動では、チームの主力として奮闘しました。さらに進路指導部をはじめとする多くの先生方の指導にしっかりと応え自身の進路実現に大きな成果を残しました。

一人ひとりが「やればできる」存在であるということを示してくれました。そしてそれはご家族をはじめとする多くの人たちに支えられた成果だということを忘れてはいけません。

卒業や進路決定はゴールではありません。大切なことは、夢を持ち続け、困難があってもあきらめず、前に進むことです。夢をあきらめることは自分をあきらめることです。

さあいよいよ旅立ちのときです。重い扉を自らの手で押し開けてください。そしてその心に大きな夢を携えていることを願っています。

生活指導部

部長 早川 由貴

本年度の生活指導部は十一名で活動してきました。

主な活動内容としては

◇ マナーアップさわやか運動

四月と九月、津ノ井駅・郡家駅に立ちあいさつ運動を行いました。九月は四日間のうち一日が休校のため中止になりましたが、元氣な挨拶と笑顔で一日をスタートすることができました。

◇ 食育講演会開催

八月、初の試みとして食育講演・ストレッチ指導・調理実習・実食をしました。高校生の健康な身体作りには欠かせない「食」について、保護者・生徒と一緒に考える一つのきっかけになれたと思います。



◇ 鳥工祭参加

校内巡視・下校時のあいさつ運動を行いました。役員も一日楽しく過ごすことができました。

◇ 鳥工PTAだより第九十二号発行

(環境厚生部と共同製作)

皆さんに楽しんで見て読んでいただけるような広報誌になったと思います。

◇ 津ノ井地域懇談会の開催

十一月、津ノ井地区自治会や地域関係者の方々に日頃感じておられる率直なご意見をいただきました。

これからの生活指導部みんなで一生懸命活動していこうと思いますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。



活動報告

人権教育部

部長 安住 友世

月日が経つのは早いもので、人権部の活動も一年が経過しようとしています。

人権教育部の活動報告を行います。

◇ 人権教育講演会参加

(鳥工小体育館・六月二十四日)

演題「部落問題を考える」

◇ 人権尊重社会を実現する

鳥取市民集会参加

(とりぎん文化会館・七月二十七日)

◇ 人権尊重社会を実現する

鳥取県研究会参加

(米子コンベンションセンター・八月五日)

八月五日

◇ 視察研修の実施

(神戸港震災メモリアルパーク・九月十七日)

鳥工生二名も参加してくれました。



◇ 鳥工祭への協賛と参加

豚汁・餅つき販売 大盛況で完売しました。

◇ 全国人権・同和教育研究大会

(大阪市各会場分科会・十一月二十六日・二十七日) 参加

◇ 公開人権LHR参加

(鳥工・二月二十日)

今年度も様々な研修に参加し、人権に関する知識と理解を深めました。部員一同一致団結し楽しく活動することができました。

ご協力ありがとうございました。



環境厚生部

部長 山根 邦子



二十八年度は、前年度と同じく四つの活動を行いました。

◎陶芸教室の開催
参加者が倍増し、初?の、午前・午後と分かれて作品を作りました。出来上がった作品は鳥工祭に展示・披露させて頂きました。

◎環境整備の実施
保護者の皆様・先生方・生徒の皆様と一緒に、津ノ井駅から桜ヶ丘グリーンゾーン・学校の敷地内までの清掃と除草作業を行いました。とてもきれいに整備されました。参加していただいた皆様、ありがとうございます。

◎鳥工祭でうどんの販売
生徒たちの売り場の変更などもあり、少し不安もあったのですが、今



年も、あっという間に二百食完売しました。

◎第九十二号
PTAだよりの編集
生活指導部の方と一緒に参加しました。今回は、表紙を環境厚生部で飾りました。ご覧になりましたか?

この一年間、環境厚生部の行事に参加して頂いた保護者の皆様、先生、生徒の皆さんに感謝いたします。全ての活動を無事に終えることができ、ありがとうございます。来年度も環境厚生部の活動にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

専門部

教育教養部

部長 谷山 明子



平成二十八年度教育教養部の活動は、

◎広報誌
『鳥工PTAだより』発行
第九十一号
七月十九日(火)
第九十三号
二月二十八日(火)

今回のPTAだよりは、題字部分の背景やレイアウトを変更するなど、見やすくなるように工夫しました。

そして、十二月に発行されました第九十二号PTAだよりは、教育教養部は関わらず、生活指導部、環境厚生部の皆さん



がお忙しい中集まって作成してくださいました。

◎『鳥工祭』への参加・協力
十月八日(土)

保護者向け喫茶コーナー(無料)
今年の喫茶コーナーは、部員さん手作りの飾り、お揃いのエプロンや髪飾りでお祭りムード満載!

鳥工祭当日は天気が良かったので、食堂内ではなく、外にコーナーを移して実施したところ、たくさんのお客様に来ていただき盛り上がりしました。

◎『公開授業参観週間』の広報活動
十月二十四日(月)～二十八日(金)
今年度の部員の皆さんはじめ、PTA役員さんの鳥工愛に感謝いたします。

教養部の活動にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。

第五十八回 中国・四国地区高等学校PTA連合会大会香川大会 報告

教頭 上原 正樹

平成二十八年七月十五日(金)、香川県高松市にありますレクザムホールにおいて、一九一八名の会員が一堂に会し開催された大会に、本校から、下多順一郎PTA会長、植垣緑PTA副会長、重森直子PTA副会長とともに参加しました。

午前中の講演では、「違うから面白い、違わないから素晴らしい」という演題で、テレビ等でもお馴染みの演出家、宮本重門氏による講演がありました。幼い頃より日本舞踊を習うなど人と違っていたことから悩み、高校時代に不登校となる。その際にカウンセリングを受け、医師に自分の存在を認められ、自分の生きる意味・道を見つけ出した。その後、舞台演出家として乗り越えるべきハードルに直面したとき、「自分は仕事を通じて人々に何がしたいのか?何のために仕事をしているのか?」を自問自答する中で、原点を見失わない大切さを痛感。原点である「人々にワクワク感を感動を通して伝えたい」という初心に戻り、①心を開くコミュニケーション(話すこと)によって理解してもらう。自分自身をさらけ出し場を和ませる。批判しない。駄目出ししない」と②時代と共鳴するクリエイション術(ジャンルの異なる人の集まりであるデコボコチームで舞台を構成する)を実践。一人一人の違いを認め合い、違う個性があるからこそ面白い舞台が演出出来た

ことを話された。講演の最後に、沖縄での山羊解体調理の体験を通して、我々は他の生き物の命を戴いて生きていること。また、沖縄では昔から変わらぬ皆がフェイス・トゥ・フェイスの大切さやおおらかさを持つて人間同士のコミュニケーションの場を機能させており、その素晴らしいことが語られました。改めて時代の進展に伴い我々が忘れてしまった人間関係の在り方について深く考えさせられました。

午後からの研究協議では三校の発表がありました。一校目は、岡山県立井原高校が発表。地域の2つの高校が再編成される中で、学校行事が地域伝統行事と合同開催することとなり、その祭りへのPTA模擬店の出店参加の取組発表でした。

二校目は、高知県立高知工業高校が発表。就職試験直前の生徒に対する模擬面接をPTAが学校と協力して実施したり、企業・大学訪問をPTA研修の一環として実施するなど学校のキャリア教育にPTAが全面的にバックアップしている取組発表でした。

三校目は、香川県立琴平高校が発表。従来からボランティア活動として学校が取り組んできた「大震災被災地の皆さんとの交流活動」にPTAも同行し交流することにより、その活動の素晴らしさを目の当たりにし、活動支援の輪を拡げている取組

発表でした。

本校でも同様な活動が一部実践されており、取り組める下地は十分にあることを一緒に参加した本校PTA役員の方々と確認。更に本校の活動は専門高校ならではの特色ある活動も多く、中四国のPTA活動先進校に勝るとも劣らないものであり、今後の活動への勇気と自信、更にはやりがいを感じる事ができました。

最後に、開催地である香川県の高松市による発表がありました。「リズムなぎなた」を琴平高校なぎなた部、「料理パフォーマンス」を坂出第一高校食物科料理研究部、「書道パフォーマンス」を高松商業高校書道部が実践されました。いずれも全国を代表する特色ある部活動の取組で、そのレベルの高さに参加者一同、圧倒され深く感動しました。

閉会行事では、来年度開催の山口県の紹介と挨拶があり、大会は成功裡に終了しました。皆様、是非とも来年度PTA役員として参加をしていただき大きな感動を味わっていただくことを期待しております。



第六十六回全国高等学校PTA連合会大会に出席して

副会長 谷本 眞奈

平成二十八年八月二十五、二十六日第六十六回全国高等学校連合会大会が千葉県幕張メッセで開催されました。本校では都宮先生、下多会長、私の三名の参加でした。

一目目地元の高校吹奏楽部によるすばらしいアトラクション、森田健作千葉県知事の熱い挨拶から始まり、ユーモアたっぷりの基調講演を受け、午後からは各分科会ごとのテーマに基づいて提案者、助言者、参加者が一体となって熱心な分科会討議が行われました。

二日目は記念講演、「日本昔ばなし」、「家政婦は見た」でおなじみの女優市原悦子さんの講演で自身の幼少期の体験や朗読を聞き、どんな物語の中に吸い込まれていく自分がいました。

今回、PTA全国大会に参加するのは初めてでしたが、本当に貴重な体験をさせていただきました。

全国には、いつも子ども達と同じ目線で同じ気持ちで我が子の高校生活を見守って、熱い気持ちでPTA活動をしておられる方がたくさんおられる事を知り、私も頑張っていきたいなあと感じました。

暑い中の全国大会でしたが、都宮先生、下多会長楽しかったですね。次のPTA全国大会は静岡県で開催されるようです。ぜひ皆さん、生しらずを食べにそしていい話が聞けて貴重な体験ができるはずですよ。参加してみてください。

